

須崎港を取り巻く状況

須崎港周辺の状況

港を中心に栄えてきた
須崎市

- 港周辺に立地する工場や木材団地を中心に工業都市として発展
- 魚市場に水揚げされる魚介類は種類が豊富で、全国でもトップクラス
(須崎市観光協会HPより)



鳥形山から約23kmを9基のベルトコンベアで運搬

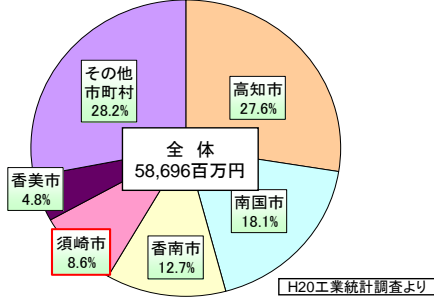


日鉄鉱業(株) 鳥形山鉱業所

須崎港周辺の状況 ~須崎市産業を支える須崎港~

工業編

県内製造品出荷額市町村別割合
(従業員4人以上の事業所)



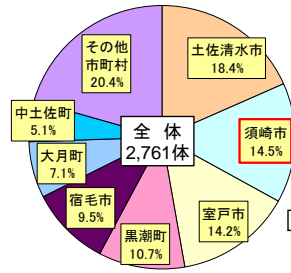
須崎市内における
製造品出荷額上位3業種

- 1位 窯業・土石
- 2位 非鉄金属
- 3位 木材・木製品

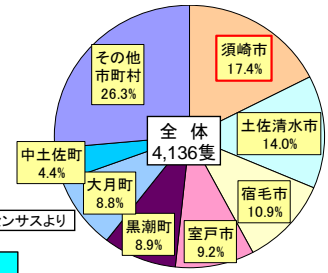
港周辺立地業
の影響が大

漁業編

県内漁業経営体数市町村別割合



県内登録隻数市町村別割合



水産業が基幹産業
のひとつである。

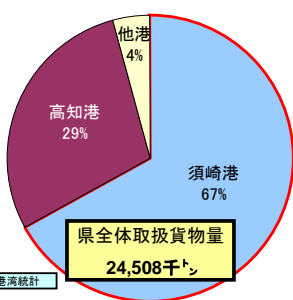


産業振興計画地域アクションプラン

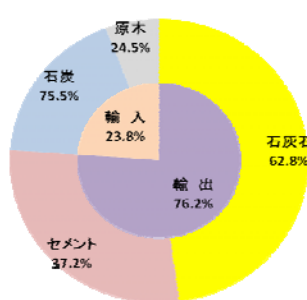
「須崎の魚による地域産業の振興」を掲げ、水産業を中心とした地域産業の振興策を展開中。

須崎港の貨物

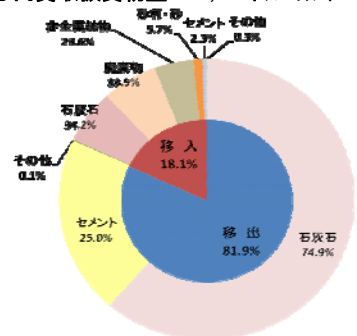
●高知県の港湾貨物量の約7割を担う須崎港



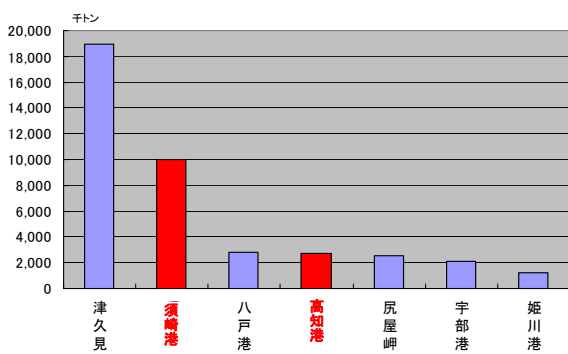
●外買取扱貨物量 3,781千フレイトン(H20)



●内買取扱貨物量 12,658千フレイトン(H20)



●全国有数の石灰石供給拠点(10万トン以上/H19)



●全国の鉄鋼用石灰石3割を支える高知県



検討事項(1) 高知港・須崎港の港湾機能連携

2港連携の検討

工業港としての須崎港、商業港としての高知港それぞれの特色を活かした一体運用を図るための機能連携を検討

現状

機能連携

法的統合(一港化)

港湾法
港則法等

高知～須崎間の貨物量
(潜在港湾貨物量)

機能的一港化

新規直轄事業着手対象港湾
[関連事業的
効果促進的]

【須崎発着貨物】

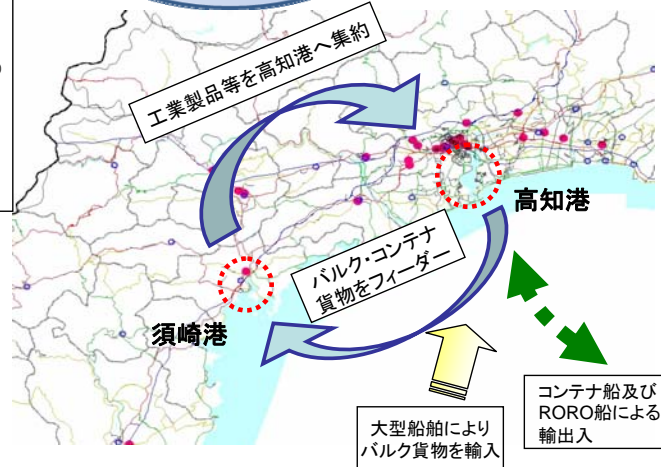
- コンテナ貨物(高知港利用)
炭酸カルシウム:400TEU
- コンテナ貨物(阪神港利用・陸送)
炭酸カルシウム:700TEU
単結晶シリコン(材料):2,300^{トン}
単結晶シリコン(半製品):1,500^{トン}
梱包材:180,000^{トン}
- バルク貨物
セメント:40,000^{トン}(陸送)
石炭:700,000^{トン}(須崎港)

【高知港～須崎港の主な輸送貨物】

- コンテナ貨物
炭酸カルシウム:1,100TEU(須崎→高知)
単結晶シリコン(材料):2,300^{トン}(高知→須崎)
単結晶シリコン(製品):1,500^{トン}(須崎→高知)
梱包材:180,000^{トン}(須崎→高知)
- バルク貨物
セメント:40,000^{トン}(須崎→高知)
石炭:700,000^{トン}(高知→須崎)

陸送
他港利用
船舶の制約

安価な輸送手段
(ex.はしけ輸送)
利便性



検討事項(2) 富士ヶ浜の現状 1/2

【概要】

富士ヶ浜は昔から風光明媚な海浜であり、沖から遠望すると富士山のように美しい浜から富士ヶ浜と名付けられたとも言います。

現在は花火大会の会場として利用するなど、市民の憩いの場として多くの方に利用されています。

【今後の課題】

①浜の利活用

都市計画道路青木の辻線(シンボルロード～須崎魚市場間)が平成20年代中頃に開通予定であり、富士ヶ浜背後へのアクセスがスムーズになるため周辺施設と一体化した利活用の検討が必要。

②砂浜変化に対する対応

周辺環境の変化に伴う砂浜の状況把握が必要。

昭和30年代中頃

～海水浴で賑わっている富士ヶ浜～



現在

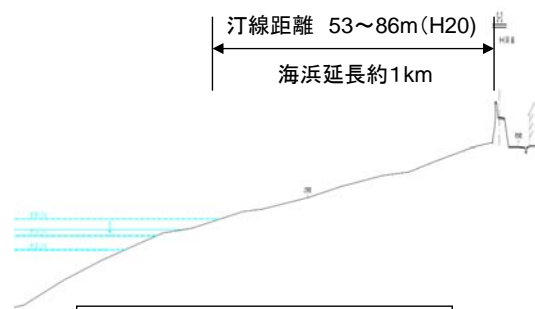


花火大会の様子

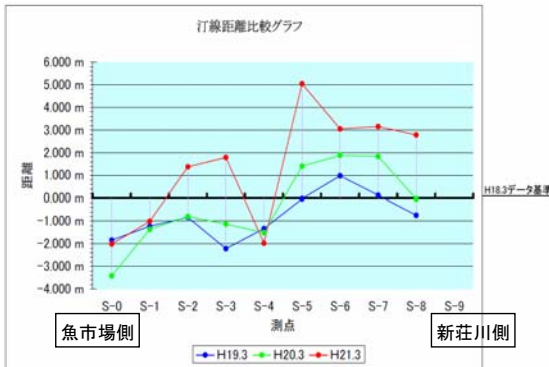


検討事項(2) 富士ヶ浜の現状 2/2

富士ヶ浜汀線状況



富士ヶ浜汀線観測 (H17~H20) 結果



都市計画道路(南北道路)

都市計画道路 青木の辻線概要

道路延長 L=378m
幅員12~14m(2車線)



富士ヶ浜・魚市場へのアクセス性が格段に向上

周辺施設と一体化した街並み整備が必要
→産業振興計画地域アクションプラン「須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業」のなかで南北道路を活用した賑わいづくりを掲げており、それとの連携が必要

検討事項(3) 串の浦ケーソン製作ヤード

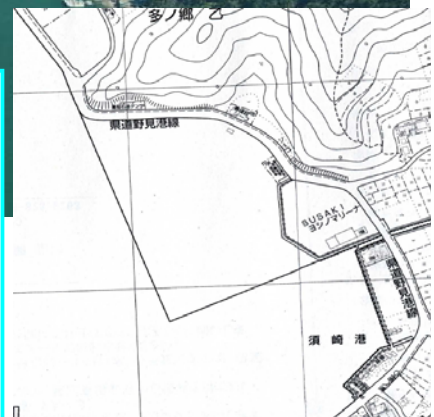


【概要】

津波防波堤の円滑な整備が図られるよう工作物を製作するための作業ヤードを串の浦地区に建設。
(着工:平成元年、完成:平成5年)

【課題】

津波防波堤の完成が平成20年代中頃を予定しているが、完成後の作業ヤードの跡地利用をどうしていくかが課題。
(埋立申請書では、国・県(港湾管理者)及び須崎市と調整のうえ、地域発展のため有効な利用を計ることとするとしている)



検討事項(4) 須崎港津波対策事業

■須崎港津波対策事業進捗事業

施設名	事業種別	整備年度	全体延長(m)	H22末まで整備済延長	整備率(%) (延長)
津波防波堤	直轄	S58(H4現地着)~	1,420	1,260	89
高潮防潮堤	補助	S61~	6,568	6,503	99

■昭和南海地震直後の須崎港

